

平成 17 年度 第 2 回 幹事会議事録

(社) 日本地すべり学会

日 時：平成 17 年 8 月 29 日 (月) 11 時 00 分～14 時 40 分

場 所：アルカス佐世保特別会議室

| 出席者： | | 区分 | 氏名 | 出欠 | 区分 | 氏名 | 出欠 | |
|------|-----------|-----------|----|-------|-------|---------|---------|---|
| 三役等 | 会長 | 山 岸 宏 光 | ○ | 各支部長 | 北海道 | 前 田 寛 之 | | |
| | 副会長 | 吉 松 弘 行 | ○ | | 東北 | 国際部長兼任 | | |
| | 副会長 新潟支部長 | 丸 井 英 明 | ○ | | 新潟 | 副会長兼任 | | |
| | 専務理事 | 落 合 博 貴 | ○ | | 中部 | 北 澤 秋 司 | ○ | |
| | 前会長 | 佐 々 恭 二 | ○ | | 関西 | 末 峯 章 | ○ | |
| | 表彰委員長 | 藤 田 壽 雄 | ○ | | 九州 | 宜 保 清 一 | ○ | |
| | 教育問題委員長 | 岩 尾 雄 四 郎 | ○ | | 北海道 | 米 田 哲 朗 | | |
| 各部部长 | 総務 | 広 嶋 孝 也 | ○ | | 支部長代行 | 東北 | 千 葉 則 行 | ○ |
| | 編集出版 | 松 浦 純 生 | ○ | | | 新潟 | 古 川 昭 夫 | |
| | 事業計画 | 檜 垣 大 助 | | | | 中部 | 小 野 和 行 | |
| | 国際 東北支部長 | 宮 城 豊 彦 | | 関西 | | 福 岡 浩 | | |
| | 研究調査 | 山 崎 孝 成 | ○ | 九州 | | 福 田 順 二 | | |
| 部長代行 | 総務 | 財政委員長兼務 | | 財政委員長 | | 小 林 佳 嗣 | ○ | |
| | 編集出版 | 阿 部 真 郎 | | 広報委員長 | | 太 田 英 将 | ○ | |
| | 事業計画 | 伊 藤 俊 方 | ○ | 庶務委員長 | | 安 藤 範 仁 | ○ | |
| | 国際 | 大 河 原 彰 | | 出席者数 | | 18 | | |
| | 研究調査 | 榎 田 充 哉 | | 欠席者数 | | 2 | | |

関西支部 山本哲朗 引継ぎ参加

【会議資料】

- | | |
|------------------|------|
| 1. 第 1 回幹事会議事録 | 資料 1 |
| 2. 平成 17 年度幹事会名簿 | 資料 2 |
| 3. 出版事業について | 資料 3 |
| 4. 各支部からの提案書 | 資料 4 |
| 5. 各賞の審査報告 | 資料 5 |

【参考資料】

1. 公益法人制度の抜本的改革に向けて (論点整理)
2. 東北支部, 新潟支部会勢拡大策
3. 企画委員会報告
4. 事業計画部
5. 賛助会員に対する対応について

1. 開会

会長の挨拶

前回議事録の承認

2. 議題

(1) 出版事業の進め方について 資料3 編集出版部より報告

- ◆ 出版事業企画方式，出版事業企画方式と出版方法等の説明
出版実績の説明，社団法人 日本地すべり学会出版規則（案）をたたき台として提出した。
宮城先生からの出版申請書の説明
鵜飼先生の出版方法は未確定の段階である。
- ◆ 編集委員長を決めて責任をもってやってもらう方法もある。
- ◆ 出版社が責任を持ってやるのか，すぐ答えがでない。
- ◆ 出版社経由の場合，経費がかかる。自費出版の方法もあり，出版社，著者がそれぞれ責任を分担する方法もある。
プログラム付き CD の場合，PC 機種に依存されないハイブリット方式が望ましい。
- ◆ 10 月までに編集委員会で検討する。

(2) 会勢拡大策の具体的活動方針（各支部からの提案）

資料4 その他参考資料

- 1) 北海道支部 欠席
- 2) 東北支部 ここ数年で正会員が 30 名増大
①官庁との共催による講演会などの開催申し入れ，②市町村レベルでも指導，相談協力申し入れ
- 3) 新潟支部
①自治体での講習会やシンポジウムの開催，②斜面診断とアドバイス，③イベント開催等
- 4) 中部支部 9/8 の支部運営委員会で決定する。
①長野以外でシンポジウム開催，②教育委員会にPR
- 5) 関西支部
①シンポジウムで入会勧誘，②web でPR,
- 6) 九州支部
① 大学公開講座で参加，②フォーラムに参加

7) まとめ

- ①会勢拡大策として、各支部とも計画予定の報告が多い。今回は、実績報告をお願いしたい。
- ②会員数は、日付付き資料が正確である。H17/8/8 現在 2,084 名
- ③学生会員が増加し県職員が減少する傾向にある。この結果、会員平均年齢が低下した。

(3) 賛助会員の取扱いについて 参考資料「賛助会員に対する対応について」 事務局より報告

- ◆ 賛助会員に対するメリットが少ない。賛助会員のうち、建設会社が減少し、計測機器が入会、全体的に賛助会員数が減少している。将来の公益法人法改正をふまえ、賛助会員を増やす必要がある。賛助会員としてのステータスが見えない。対応策を早急に協議して欲しい。
- ◆ 11月までに具体的に詰める予定

3. 報告

(1) 各賞の審査報告 参考資料 「表彰委員会からの連絡」 表彰委員長より報告

- ①論文集 阿部真郎氏 「東北地方における第三紀層地すべりの地質的要因と変遷過程」
- ②研究奨励賞 眞弓孝之氏 「すべり面せん断試験機の開発とすべり面のせん断強度及び物理的性質に関する研究」 推薦文の修正の必要あり。
- ③谷口賞 該当無し
- ④特別賞 功績賞 (学会創立 40 周年)
第3代会長 山口真一先生 第4代会長 渡 正亮先生

(2) 関東支部設立の準備状況 参考資料 「企画委員報告」

① 関東支部設立の問題

企画委員会から関東支部設立企画委員会の状況報告がなされた。

群馬大学鶴飼先生が支部長、事務局は国土防災技術 (株)の前橋支店と決定。第2回関東支部設立準備会まで行われ、9/30 に第3回準備会が予定されている。該当各県の課長クラスにも入会案内を出す計画、市町村との関係も模索中。準備会費用は学会の予備費で対応、平成18年4月から正式に支部を立ち上げる場合、支部の助成金の方法(定率割合または会員数割合)を決める必要がある。理事会で協議して欲しい。

② 研究発表会のあり方について

来年度の開催県である鳥取県の決定に時間がかかり、徐々に研究発表会の開催が難しくなってきた。行革により従来の三省庁による県の開催が困難となってきた。企画委員会内で国土交通省の担当官を交えて今後の方針を検討する予定。来年度の鳥取県は従来とおりの開催が可能と思われる。再来年度以降は検討する必要がある。

(3) 公益法人法改正について（学会の税務調査報告含む） 事務局より報告

事務局から「公益法人制度の抜本的改革に向けて」について説明

- ◆ 平成 18 年度に公益法人制度の法改正が計画されており，平成 19 年度から施行予定である。現在の情報をまとめると，最近の公益法人は，営利主義が多く公益機能が少ないため，社会的に問題となっている。そこで，法人制度の改革や見直しが進められ，法人は，「非営利法人（仮称）」と「中間法人（仮称）」に区分される。地すべり学会も法人となって4年経過し，法人のメリット，デメリットを検証し，将来どのような形態をとるべきかを検討する時期に来ている。現在のところ，地すべり学会は，NPOまたは公益法人と予想される。これらの内容について，理事会または新たな委員会を立ち上げて検討して欲しい。

- ◆ 平成 17 年 7 月末に芝税務署から税務調査が実施され，課税対象を指摘された。例えば，研究発表会の機器展示の費用，意見交換会の費用などは課税対象と見なされる。各支部の出版物も課税対象となるため，平成 13 年度からさかのぼり，出版に費やした費用（経費）を整理して欲しい。また，講演会等の費用も課税対象となるため，今後計画されている支部は，事前に事務局へ連絡して欲しい。

4. 開会

以上

（記録：安藤，文責：広嶋）